

整備事業の推進

【平成25年度】

- 大阪市戦略会議において、市立美術館と新美術館の建物の統合は行わず、東洋陶磁美術館を含めた3館について各館のコンセプトを明確にし、経営統合をめざすことを決定
- 基本構想調査（ソフト調査）及び建築基本計画調査（ハード調査）の実施

【平成26年度】（予定を含む）

- 『新美術館整備方針（案）』の公表（2020年度までの開館をめざすことを大阪市戦略会議で決定）
 - 整備方針(案)に対するパブリックコメントの実施（5月30日～6月30日）
 - 整備方針の策定（8～9月頃）
- 民間資金を活用した事業スキームの検討調査の実施（民間資金の活用可能性等について検討）
- 隣接市有地（もと舞台芸術総合センター跡地）の開発にかかるマーケットリサーチの実施（夏頃）

所蔵作品による展覧会の開催

【平成25年度】

- 『パリー大阪 街と芸術をめぐる物語』（大丸梅田店）
- 『佐伯祐三とパリーポスターのある街角ー』（島根県立美術館）

【平成26年度】（予定を含む）

- 『きらめく日本画コレクション』（大阪高島屋）
- 『佐伯祐三とパリーポスターのある街角ー』（静岡県立美術館～宇都宮美術館～山梨県立美術館）

新しい美術館の整備事業【②整備方針(案)の概要】

新美術館のコンセプト

- 佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす。
- 「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムとして、市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する。
- 歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として、文化の振興や都市の魅力向上に貢献する。
- 民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする。

【参考】施設整備の概要（案）

項目		備考
【施設整備費】	121億円	設計・監理費/工事費/備品購入費
項目		備考
【延床面積】	15,000m ²	-
内訳	コレクション展示室	2,200m ² 日本近代/西洋近代/デザイン/現代/テーマ展示 (うち500㎡は企画展示室としても利用可能)
	企画展示室	1,200m ² 大型の巡回展にも対応できる面積を確保 (1,200㎡もしくは1,700㎡での利用が可能)
	コミュニケーション	2,100m ² パッサージュ、講堂、ワークショップ室等の オープンエリア
	保存・研究	2,500m ² 収蔵庫、一時保管庫、調査研究室等
	管理・共用	7,000m ² 管理部分(事務室、機械室、倉庫等) 共用部分(展示ホール、廊下、階段等)

(駐車場及びサービス施設は含まず)

※今後、新美術館の活動内容について具体的な検討を進めるとともに、別途検討を進めている市立美術館の改修計画や工事費の変動等も踏まえながら、施設整備の概要を決定します。

今後のスケジュール

新しいミュージアムは、大阪の新たな観光拠点として、2020年度（H32）までの開館をめざす。

※『大阪の観光戦略』において、2020年までを計画期間として、来阪外国人旅行者数を650万人とする目標を掲げている。また、2020年には東京オリンピックの開催が予定されている。